

平成31年度 学校評価総括表 伊丹市立伊丹小学校							
教育目標		徳・知・体の調和のとれた心豊かなたくましい子の育成					
重点項目		1、人間尊重の精神を培い、心豊かな生活実践に努める態度を養う。 2、基礎的・基本的な知識技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決する能力を育む。 3、命を尊び、心や体を鍛え、たくましく生き抜く力を培う。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校運営協議会委員評価
基礎・基本の徹底と授業改善	・基礎的、基本的な知識技能を習得する。	・朝学習を「とらもどす学習」と捉え、反復練習により既習内容の定着を図る。 ・学期末の各学年計算チェックテストを継続し、課題を明確にし、素早く対応する。	・計算チェックテストの正答率が85%以上になる。	B	・朝学習の時間を確保し、学習に取り組む時間として定着している。国語や算数、社会など各学年で学習内容を確認し、取り組みを行うことができた。今後は、チェックテストの分析とも関連させて、より効果的な内容にしていける必要がある。 ・各学年ともに、普段の学習の様子から感じられた課題となる問題をチェックテストに取り入れることができた。そのため、正答率が85%に達しなかった。チェックテストの結果についての教師の分析力の向上は今後も大きな課題である。	・既習内容の定着を図るため、各学年で計画的かつ段階的に取り組む。 ・チェックテストの結果分析により明確になった課題に対して、「対応策と指導の方法」を各学年ごとに文書にまとめる。どの教師も全学年分の「対応策と指導の方法」を共通理解し、学習に活用していく。	学習に遅れのある子どものケアとして放課後学習の充実も考えて欲しい。
		・国語(ことばに関する)チェックテストを継続する。 ・家庭学習での漢字や計算の練習量を増やす。	・国語のチェックテストを学期末に実施し、傾向を図るとともに、課題を明確にする。 ・一人一実践を通して互いの授業を公開し、子どもの主体性を高める手立てや評価方法について見識を深める。		・朝学習で取り組んだ内容を中心として1、2学期末に国語のチェックテストを実施できた。チェックテストの内容についての課題が見えてきたので、来年度の取り組みに活かす。 ・学年に応じた練習量を家庭学習として出すことができた。	・今年度の課題をふまえて、朝学習の取り組みを継続するとともに、チェックテストの内容についても検討していく。 ・「量」と「継続」を意識し、家庭への啓発を図る。	
思考力・判断力・表現力の育成	研究テーマの実現に向けた授業づくりを進め、その成果を発信する。	・昨年度までの研究を通して確立した授業スタイルを基礎として、子どもの主体性を発揮・伸長する評価活動の場を取り入れ、日常の授業での実践を図る。	・各研究授業を通して、ルーブリックを用いた評価や発達段階に応じた評価方法など、自分の思考の深まりを実感し主体性を発揮できるふりかえりの方法を検討し、日々の実践に取り入れる。 ・一人一実践を通して互いの授業を公開し、子どもの主体性を高める手立てや評価方法について見識を深める。	B	・研究授業等の実践を通して、子どもの発達段階に応じた評価方法を開発し、日々の実践に活かすことができた。 ・若手とベテランの教員が互いに授業を見合うことで、授業力の向上を図ることができた。 ・新学習指導要領の3つの柱に応じた評価規準等の見直しが必要になるとともに、本校の評価方法としての統一性を図る必要がある。	・年度当初の段階で、評価基準の示し方を系統化して示し、子どもたちの提示の仕方と統一する。 ・研修会等を通して、評価基準の設定の仕方や評価方法についての見識を深める場をもつ。	概ね良好である。
		・読書活動を充実させ、読書力の獲得を図る。	・読書の習慣をつける。 ・「図書だより」や掲示物でおすずめの本を知らせる。 ・やるソウカードの取り組みを通して家庭の読書への関心を高める。		・児童自身が目標を立て、1か月の読書冊数が15冊以上になる。 ・5、6年生の児童へのアンケートで、「読書をするのが楽しい」という項目の肯定的回答が85%になる。 ・保護者の「子どもは家庭で読書に親しんでいる」という項目の70%以上の肯定的回答をめざす。	・朝読書の時間を設定したり、図書室の時間に本を読む時間を設けるなどして、本を読む時間を保障することができた。本の貸し出し返却を電子化したことにより、貸し出し返却に要する時間が短縮され、読書の時間を長くすることができるようになった。 ・紹介させた本には、興味を持つ児童が多くみられた。 ・家庭で読書を話題にしたり、親子で一緒に読書をするなど家庭での読書にも関心を持たせることができた。しかし、一部には取り組みに関心を持たない家庭もある。	・今年度効果のあった取り組みを継続し、来年度児童の実態を見つめながら、「読書記録」や「読書カード」など、新たな取り組みを加えていく。
学力の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。	・iPadなどのICT機器の導入を行い、各教科にてICT機器を有効に使用し、学習意欲の向上を図る。	・iPad等の情報機器の導入及び、ICT機器の活用方法の研究を進め、実践交流を行う。 ・新指導要領におけるプログラミング教育に関して、研修等を行い、職員理解向上を図る。	B	・各学年にて大型ディスプレイを使用した授業や、インターネットを活用した授業は増えてきた。 ・プログラミング教育についての研修や、iPadについての研修など、プログラミング教育やICT機器に関する基礎的な研修を進めることができた。 ・プログラミング教育に関しては、基礎的な研修を行うことができたが、積極的に普段の授業に取り入れるには至っていない。	・各学年、教科におけるプログラミング教育の実践例を紹介するなど、プログラミング教育を周知させる。 ・書画カメラなど、基本的なICT機器を毎時間活用するなど、情報機器の活用を推進する。	ICT機器が使いこなせるよう積極的に研修等に参加して欲しい。
		・規則正しい生活規範を確立する。	・放課後の子どもたちの過ごし方は、学校と家庭の共通した取り組みとして考えるようにする。家庭での様子は各通信や懇談会で共有していく。 ・「やるソウカード」を分析することで、子ども家庭での過ごし方について学校側も理解する。家庭での過ごし方など様子を把握する材料としていく。 ・登校後すぐに名札をつける習慣をつけさせる。 ・上靴のかかとを踏んで過ごす子どもがいるので、安全を考慮指導を呼びかける。 ・自分の持ち物への意識を高めていくために、持ち物への記名を徹底させていく。 ・開始時間を守り、隅々にまで掃除をすることを意識させる。		・学校での取り組みを、通信などでお知らせをすることで、「やるソウカード」に書かれている「学習時間」「読書時間」「テレビ・パソコン・ゲームする時間」などから、重点的に指導していくことができる。 ・学校内では全員が名札をつける理由を理解して、学校生活を送るようになる。 ・安全と自分自身の健康に気を配りながら学校生活をおくるようになる。 ・自分の持ち物を大切に、落としたり壊すのを減らそうと意識するようになる。 ・時計を見て、掃除場所へ移動し、開始時間を守って掃除を行う。 ・安全衛生上きれいな教室や廊下で生活を送ることを意識して掃除を行うようになる。 ・学期末の大掃除では、学期の区切りを意識して取り組む姿が見られるようになる。	・互いに声をかけ合い、登校後名札をつける姿が見られた。児童集会など全校生の前に立つときに、付けていない高学年がいたので、意識させていく必要がある。 ・付ける理由を伝え続けていく。 ・週末には、上靴を家に持ち帰り洗う習慣をつけることで、保護者のチェックもあり、買い替えがスムーズに行われていた。持ち帰らない、持ち帰っても洗わず持つてくる児童の上靴について、かかとを踏んでいることがある。 ・生活委員による、テレビ放送で落とし物について知らせると、意識して落とし物置き場に目に来る児童が増えた。落とし物を見ると、名前が書かれていない物がほとんどだった。 ・時計を見て、移動できる児童が出てきた。掃除マニュアルなどを目につくところに貼ることで、丁寧に掃除をする児童が見られた。 ・掃除時間中に話しかけて手の止まっている姿が見られた。 ・学期末掃除については、意識して丁寧に掃除をする姿が見られた。	・高学年においては子ども自ら計画的に放課後の時間の使い方について考え、過ごせるように、学校も家庭も指導を徹底していく。低・中学年においては、段階を経て、計画的に過ごせるように指導していく。 ・教室での名札の置き場所など工夫する。名札を付ける理由を明確にして、自ら付けようとする意識を指導していく。 ・週末の上靴の持ち帰りや洗いを徹底して指導していく。家庭との連携を取り合い、持ち物の記名について徹底できるようにしていく。
学習意欲の向上	・規則正しい生活規範を確立する。	・放課後の子どもたちの過ごし方は、学校と家庭の共通した取り組みとして考えるようにする。家庭での様子は各通信や懇談会で共有していく。 ・「やるソウカード」を分析することで、子ども家庭での過ごし方について学校側も理解する。家庭での過ごし方など様子を把握する材料としていく。 ・登校後すぐに名札をつける習慣をつけさせる。 ・上靴のかかとを踏んで過ごす子どもがいるので、安全を考慮指導を呼びかける。 ・自分の持ち物への意識を高めていくために、持ち物への記名を徹底させていく。 ・開始時間を守り、隅々にまで掃除をすることを意識させる。	・学校での取り組みを、通信などでお知らせをすることで、「やるソウカード」に書かれている「学習時間」「読書時間」「テレビ・パソコン・ゲームする時間」などから、重点的に指導していくことができる。 ・学校内では全員が名札をつける理由を理解して、学校生活を送るようになる。 ・安全と自分自身の健康に気を配りながら学校生活をおくるようになる。 ・自分の持ち物を大切に、落としたり壊すのを減らそうと意識するようになる。 ・時計を見て、掃除場所へ移動し、開始時間を守って掃除を行う。 ・安全衛生上きれいな教室や廊下で生活を送ることを意識して掃除を行うようになる。 ・学期末の大掃除では、学期の区切りを意識して取り組む姿が見られるようになる。	B	・互いに声をかけ合い、登校後名札をつける姿が見られた。児童集会など全校生の前に立つときに、付けていない高学年がいたので、意識させていく必要がある。 ・付ける理由を伝え続けていく。 ・週末には、上靴を家に持ち帰り洗う習慣をつけることで、保護者のチェックもあり、買い替えがスムーズに行われていた。持ち帰らない、持ち帰っても洗わず持つてくる児童の上靴について、かかとを踏んでいることがある。 ・生活委員による、テレビ放送で落とし物について知らせると、意識して落とし物置き場に目に来る児童が増えた。落とし物を見ると、名前が書かれていない物がほとんどだった。 ・時計を見て、移動できる児童が出てきた。掃除マニュアルなどを目につくところに貼ることで、丁寧に掃除をする児童が見られた。 ・掃除時間中に話しかけて手の止まっている姿が見られた。 ・学期末掃除については、意識して丁寧に掃除をする姿が見られた。	・教室での名札の置き場所など工夫する。名札を付ける理由を明確にして、自ら付けようとする意識を指導していく。 ・週末の上靴の持ち帰りや洗いを徹底して指導していく。家庭との連携を取り合い、持ち物の記名について徹底できるようにしていく。	・子どもたちのモチベーションをあげるためにも、機会を捉えて子どもたちを賞賛する。また、そのことよって、子どもたちの自尊感情をあげる。

豊かな心・健やかな体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。 ・学習のはじめに、基礎体力を高めるための運動を取り入れる。低学年のうちから、多様な運動を段階的に経験できるように、年間カリキュラムに組み合わせ単元を組み込む。 ・新しい単元に入る前に、身に着けたい技能や、単元の流し方、場の設定、学習カードの項目などについて、学年で検討することで、クラス間の授業の均一化を図る。 ・月に2回、「のびのびプレイタイム」を実施し、室内で過ごすことの多い児童の体を動かす機会を増やす。体を動かすことや友だちと関わることの楽しさを感じることで、運動に対して前向きな気持ちをもつことができるようになることをねらう。 ・体育委員と連携し、体を動かす企画を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のはじめに、基礎体力を高めるための運動を取り入れる。低学年のうちから、多様な運動を段階的に経験できるように、年間カリキュラムに組み合わせ単元を組み込む。 ・各学年に「体育ファイル」をつくり、その年度で作成・使用した資料や学習カード、ワークシート等を、学年ごとに集約し、次年度へ申し送ることで、伊丹小学校での実践を積み上げていく。 ・アンケートにおいて「体を動かすことが楽しい」と回答した児童が90%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の5年生男子が54.29点で、今年度が54.03点と、同程度で推移している。全国平均を上回ったのは、反復横跳びと立ち幅跳びのみで、他の6種目は全て下回っている。 ・また昨年度の5年生女子が51.29点で、今年度が54.69点と、3.39点の向上が見られた。全国平均を新ったのが握力、上体起こし、ソフトボール投げ、立ち幅跳びの4種目であった。 ・男女ともに、特に下位にあるのが、握力・上体起こし・ソフトボール投げの3種目となった。 ・単元について学年で検討することで、授業の中に単元に合った基礎的な運動を取り入れた授業を行い、単元の進め方や評価の仕方について検討できた。 ・「体育ファイル」の中に、小学校体育研究会で作成した資料も取り入れ、多様な授業アイデアを学年におろすことができた。 ・6年生は学校評価アンケートにおいて、「体を動かすことが楽しい」と回答した児童が、前期91%から後期84%へと推移していった。 ・前期は目標に達したが、後期は達成できなかった。昨年度も寒く後期に数値が下がった。 ・「のびのびプレイタイム」や「体育委員と遊ぼう!」は、外遊びをすきかけとして有効であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年のうちに多様な運動を、段階的に経験させていくことで、技能的に向上させるとともに、運動嫌いを増やさないようにする。 ・ボール投げについて、低学年から段階的に身につけさせたい技能を明確にし、指導にあたるように年間カリキュラムに定める。 ・握力について、固定遊具を活用できるように、長い期間で取り組めるように年間カリキュラムに定める。 ・上体起こしについて、体幹を鍛えられるあそびや運動を検討していく。 ・今年度の取り組みを継続していく。 	概ね良好である。
	豊かな心を育む 道徳教育・情操教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について学び、道徳的実践力を育成する。 ・教科書に加え、「心シリーズ」などの副読本も積極的に活用しながら、内容項目のバランスが取れたカリキュラムを編成する。 ・学校教育目標や毎月の生活目標、学校行事への取り組みと道徳的学習内容と関連づけ学校全体としての道徳的実践意欲を高める。 ・自分自身の生活をふりかえり、自分の行いを見つめなおす場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や副読本の活用状況に応じたカリキュラムを作成し、その内容や時間配当等の妥当性を検討する。 ・毎月の生活目標に書かれた内容を生活の中で実践しているか定期的にふりかえることができるようになる。 ・学校行事・活動での経験と道徳の学習で学んだことを関連づけて考え、思いやりのある行動を心がけるようになる。 ・1日単位、1か月単位など、子どもたちが実行できる単位で生活のめあてを設定し、終わりの会や学級会などでふりかえる場を設定していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実践状況と子どもの実情をもとに題材の一部見直し、カリキュラムを完成させることができた。 ・毎月生活目標を決め、教室掲示や学年通信、学校新報での通知などを通して、学校全体での意識が向上した。 ・学校行事と関連づけて題材の一部において実施時期を変更するなど、より相乗的な効果をもたらした実践が見られるようになった。 ・多くのクラスで1日のめあてを設定し、終わりの会でふりかえる時間を設けていた。前日の課題をもとに次の日のめあてを設定するなど、連続性をもたせることで子どもたちの意識の向上が見られた。 ・学校評価アンケートでは、教員より子どもたちの他者の言動が厳しいという声や、思いやりに欠けるふりかえりが見られるという声がかかれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年等のフィードバックをもとに、新たな題材を取り入れた。入れ替わりやすくなるなど、子どもの実情に応じたカリキュラムの更新を行う。 ・年間行事計画の策定段階で、現行カリキュラムとの照らし合わせを行い、年度当初の段階で題材の差し替えや実施時期の入れ替えなどを検討する。 ・「めあて」実行「ふりかえり」のサイクルを通して、道徳的実践意欲を高める機会を増やすとともに、ふりかえりて互いに称賛し合う場を通して自尊感情を高めることで、自分も他人も大切にす態度を培うようにする。 	・中学校で行われているようなローテーション授業を取り入れるなど、充実！に努めて欲しい。
開かれ信頼される学校	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報収集と情報発信に努める。 ・学校通信「伊丹つ子」や掲示版等を活用して児童の様子や学校の教育活動の様子を発信する。 ・サタデースクールやスポーツ21、自治協子ども部など家庭、地域と連携した行事についても情報発信し、紹介するなど保護者、地域に理解を得ていく。 ・災害による休校等の情報を発信する。 ・ホームページの更新頻度を各学年月2回を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信を年間30号以上発行し、季節に応じた動きのある掲示版を作成する。 ・休校や学級閉鎖等の学校情報を発信する。 ・各学年、月2回の更新(年間132回) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いたみっ子メールを活用することで、リアルタイムで子どもたちの活動の様子がHPにアップすることができた。 ・学校通信「伊丹つ子」を30号発行することが出来たが、掲示版の内容が単調であった。また、学校通信を通して、子ども及び保護者に校長の思いを伝えることができた。 ・学校運営協議で、学校における課題について充実した熟議が行えたが、その結果や内容が保護者、地域に十分に発信できなかった。 ・休校や学級閉鎖等の情報を発信することができた。 ・月2回の更新ができない学年もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信の充実と発行回数をもとに、PTA、自治協議会、その他ボランティア組織と連携を密にし、地域とともにある学校作りを推進する。 ・学校通信の充実と発行回数をもとに、PTA、自治協議会、その他ボランティア組織と連携を密にし、地域とともにある学校作りを推進する。 ・全職員に写真の提供を呼び掛けるなど、担当の負担を減らすことで更新頻度を維持できるようにする。 ・学年行事については、学年の情報担当がHPを更新する。 	・リアルタイムな情報発信に努めて欲しい。
	学校運営協議会委員評価	<ol style="list-style-type: none"> ICT機器の活用を充実させ、教師の授業力を高めるとともに、授業のユニバーサルデザイン化をさらに進め、誰もが分かる楽しい授業作りを努めて欲しい。 児童の規範意識や道徳性を向上させるためにも、ローテーション授業を取り入れるなど道徳の授業を充実させて欲しい。 当番活動、委員会活動などの体験活動とおして、子どもたちを褒める機会を増やし、自尊感情の醸成に努めて欲しい。 学校便りやホームページ等で学校の様子が発信され学校の取り組みがよくわかる。今後は、リアルタイムな情報発信に努めて欲しい。 危機管理意識をしっかりと持ち、学習環境を整備し安全安心な学校づくりを推進して欲しい。 					
次年度にむけた重点的な改善点	<ol style="list-style-type: none"> 導入されたタブレット等を活用するために、ICT機器の研修を充実させ「わかる楽しい授業」の創造と主体的で深い学びを充実させる。 子どもに寄り添った共感的理解に基づく生徒指導を行うとともに、組織的な協力体制及び関係機関との連携を進め不登校児童を減らす。 ホームページ、学校便りを充実させることで、学校の様子を積極的に発信する。 学校、家庭、地域の連携をさらに深めることができるように、コミュニティスクールを充実させ、地域とともにある学校づくりを推進する。 						

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標通りに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った